

平成30年度 富山中部高校 2学年講演会 開催

期 日:5月22日(火)13:35～

場 所:至誠ホール/会議室

参加者:2学年生徒

本校にて『富山中部高校2学年講演会』が開かれ、理系・理数科学科と文系・人文社会科学科に分かれて、学問研究の最先端の知見に触れる機会を持った。



SS 講演会(理数科学講演会)に講師としてお招きしたのは、本校の卒業生である東京大学大学院工学研究科元教授の長棟輝行先生で、今回は「蛋白質を工学する」というテーマで講演を行っていただいた。長棟先生の最近の研究テーマは、次の3点だ。

- (1) 細胞の増殖、分化、生存、死などの運命を制御する技術の開発と応用
- (2) 自己組織的に複数種の酵素の複合体を構築する技術の開発と応用
- (3) 細胞を格子状に配置し、細胞の機能を一細胞で解析する技術の開発と応用

今回講演では遺伝子と蛋白質との関係、蛋白質が細胞の中で生合成される仕組み、いくつかの代表的な蛋白質の立体構造と働き、蛋白質の身近な利用例などについて、さらに、各種の蛋白質や蛋白質の一部を



部品化し、これらを目的に応じて組み合わせることによって、複数の機能を兼ね備え、天然の蛋白質を超える高い性能を発揮する人工蛋白質を作製する方法について紹介してもらった。先生の研究室で開発してこられた数多くの人工蛋白質の中から、バイオセンサ、細胞の運命制御などに応用した幾つかの例も見せてもらった。



今回講演では遺伝子と蛋白質との関係、蛋白質が細胞の中で生合成される仕組み、いくつかの代表的な蛋白質の立体構造と働き、蛋白質の身近な利用例などについて、さらに、各種の蛋白質や蛋白質の一部を



人文社会講演会は、富山大学人文社会学科准教授の南祐三先生に、「『今』と『自分』を知るための歴史学」というテーマで講演していただいた。先生はフランス近現代史、とくに20世紀前半のフランス右翼について研究しておられる。歴史学とはどういった学問なのか、とりわけ日本からほど遠い西洋の歴史を学ぶ意味を出発点として、西洋史研究の意義についての説明や、第2次世界大戦前後にフランスの雑誌に掲載されたジャーナリストの言説の分析を通して、西洋史研究の意義と魅力について講演していただいた。

人文社会講演会は、富山大学人文社会学科准教授の南祐三先生に、「『今』と『自分』を知るための歴史学」というテーマで講演していただいた。先生はフランス近現代史、とくに20世紀前半のフランス右翼について研究しておられる。歴史学とはどういった学問なのか、とりわけ日本からほど遠い西洋の歴史を学ぶ意味を出発点として、西洋史研究の意義についての説明や、第2次世界大戦前後にフランスの雑誌に掲載されたジャーナリストの言説の分析を通して、西洋史研究の意義と魅力について講演していただいた。



講師の先生方には熱心にご自身の専門について語ってくださり、講演は時間いっぱいまで使った濃密なものとなった。

生徒は、専門的な内容に戸惑いながらも、講師の方の問いかけに答えたり、身を乗り出してメモを取ったりしていて、講演に対する意識の高さがうかがえた。ある生徒からは、「自分は、文理選択後に選択外の科目を学びたいと思い始めて、文理選択に失敗したのではないかと後悔していたが、今回の講演では講師の方の研究を通して自分の今学んでいる科目への興味が出てきた。今は、自分の専攻科目と大学での進路について、少し、前向きに考えられるようになった」という感想を聞いた。



多くの生徒にとって、今回の講演会は自身の進路や今後の探究活動への意欲向上につながったのではないだろうか。その意欲を是非これからの行動に反映していきたい。

直近には、本校にて“読書教養講座”が開かれるが、校内外にも様々な講演等に足を運び、自身の見聞を広めて行きたいと思う。それは、自分の未来を作り出す一歩となるだろう。